

今後の水環境保全の在り方について

良好な水環境(目標)

【水質】

人の健康の保護、生活環境の保全、さらには、水生生物等の保全の上で望ましい質が維持されること。

【水量】

平常時において、適切な水量が維持されること。土壌の保水・浸透機能が保たれ、適切な地下水位、豊かな湧水が維持されること。

【水生生物等】

人と豊かで多様な水生生物等との共生がなされること。

【水辺地】

人と水とのふれあいの場となり、水質浄化の機能が発揮され、豊かで多様な水生生物等の生育・生息環境として保全されること。

水環境保全の目標

人の健康の保護に関する環境基準
 ・直ちに排水規制を行う必要はないが、モニタリングを行う必要のある項目について環境基準とすることを検討
 ・リスク管理の推進、評価手法の検討 等

生活環境の保全に関する環境基準
 実態を適確に表す指標の検討
 ・BOD/ CODを補完する指標
 ・有効な衛生指標(大腸菌等)
 ・DO、SS等の評価方法
 水生生物保全のための基準追加・類型指定

水環境の総合的な指標

かつての水環境(昭和30年代頃)～激甚な水質汚濁問題の発生～
 → 旧水質二法などの水環境行政の展開

時代の变化、
背景・要因

・人口増加 ・高度経済成長 ・都市化の進展
 ・工場排水から都市生活排水による水質汚濁

・人口減少 ・少子高齢化 ・低経済成長
 ・産業構造の変化 ・社会基盤整備の進展
 ・国民意識の変化 ・環境問題の多様化
 ・地球温暖化

法制度面での対応等
各種の取組
 ・水濁法に基づく排水規制
 ・浄化槽、下水道整備など排水処理施設の普及 等

- 現状における課題**
- 不適正事案の発生
 - 水質事故の増加
 - 閉鎖性水域の水質改善の遅れ
 - 河川流量の減少と水質及び土砂移動への支障
 - 希薄な人と水とのふれあい
 - 地下水・土壌の汚染
 - 水圏生態系・生物多様性の劣化
 - 海岸漂着物、海洋ごみ等
 - 気候変動による影響
 - 世界の水問題

今後の取組

湖沼の水質改善	水質保全目標の検討と汚濁や物質循環メカニズムの解明、新たな水質保全対策の検討 等
閉鎖性海域の水質改善	水質総量削減の着実な推進と新たな水質目標の設定、栄養塩類管理方針の検討 等
未規制の小規模事業場等からの負荷への対応	集中的な浄化槽設置や下水道接続の促進、事業者の自主的な取組の支援 等
面源負荷への対応	土地利用毎の汚濁物質の収支の検討と効果的な面源負荷対策の検討 等
新たな排水管理手法の検討	バイオアッセイを利用した排水管理手法などの研究やPRTR情報の積極的な活用 等
排水規制の在り方に関する検討	今後の排水規制・排水管理方針の検討と温泉排水規制の在り方に関する検討 等
人と水とのふれあいの推進	水環境とのふれあいを持つ国民等の水環境保全活動への参加促進 等
水圏生態系の保全と生物多様性の確保	総合的な水環境管理を通じた生物生息域の確保手段の検討 等
事業者の不適正事案への対応	測定データ改ざん等に係る法制度の整備、事業者及び地方自治体における公害防止体制の高度化 等
水質事故への対応	水濁法事故時の措置の対象物質、対象施設の拡大等による事故への対応の迅速化 等
地下水・土壌汚染対策	汚染実態(構造・管理上の問題点等)の解明と効果的な未然防止対策の在り方の検討 等
海岸も含めた海洋環境の保全	海洋汚染の防止、海岸漂着物の処理推進、バラスト水の処理 等
気候変動への対応	モニタリング体制及び影響予測手法の開発、影響への適応策の検討
地球規模で深刻化する水問題への国際貢献	水ガバナンスや雨水・海水・地下水の有効活用など日本の有する技術と経験による国際貢献 等
水環境ビジネスの海外進出支援	計画から施工・運営・維持・管理までパッケージ化したトータルシステムによる海外ビジネス展開 等

水環境の
モニタリングと
データの蓄積
・情報共有

統合的な
環境管理の
検討

施策のマネジ
メントサイ
クルの確立

技術開発・技術活用普及 環境教育・普及啓発 人材育成